

旭川高専、新たな必須科目 地元経営者が講義

ビジネスの課題テーマ

旭川工業高等専門学校
(北海道旭川市)は13日、

地元の経営者が実際の経営課題をテーマに講義する新たな必修科目の授業をスタートした。家具大手、カンディハウス(同)の渡辺直行会長、タンク・プラント製造、カワテックス(砂川市)の河戸三千之社長ら7人前後が登場する。

大学4年生に相当する



カメラを前にオンライン

授業の講義をするエ

フ・イーの佐々木社長

専攻科2年向け必修科目「エンジニアリングデザイン」も同日は新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインでの授業になった。食品機械製造、エフ・イー(旭川市)の佐々木通彦社長は大根洗浄機が特許を取得しヒット商品に育成した経緯を説明。「ものづくりは社会貢献。実感するとき『機械屋』冥利につきる」などと熱く語った。

講師は北海道中小企業家同友会道北あさひかわ支部(同)と連携して人選した。約30人の学生を対象に週1回、原料調達から製造、販売まで企業現場の実情や将来ビジョンを話してもらい、学生間で議論。製造現場の見学も予定する。

機械、電気、システム制御、化学学科の5年を経た専攻科は卒業後に約半数が首都圏や札幌のメーカーなどに就職し、即戦力として引く手あまたという。旭川高専は「地元で活躍する現役の経営者と交流し、社会で通用するビジネスマンとなるように後押ししたい」と期待している。

お断り 「我が社のストラテジー」は休みました。